



早稲田ヨットクラブ

会 報

第13号

昭和58年1月 発行
発行所 事務局 舟岡 正
編集・広報 石田 晋也
会費振込先 松島 弘行
第一勧業銀行 日本橋支店
普通預金 四四五七三九
口座番号
ワセダヨットクラブ 杉山博保

新年明けまして

おめでとございませす

今年ヨット部創立五十周年

理事長 杉山博保

新年おめでとございませす。今年も会員の皆様が健康で、良い年であることをお祈り致します。

昨シーズンは、ヨット部のレスキューボート(紺碧Ⅲ)の建造や、全日本インカレ遠征等の御寄附で、皆様に多大の御援助をいただき、ありがとうございます。お陰様で、ヨット部を元気づけることが出来、今後の発展が期待されます。

今年、クラブ役員交替の年であり、旧陣客でもう一期二年間を務めることに致しました。微力ではありますが、クラブ発展の為に尽くすつもりですので、御援助をお願い致します。

今シーズンの事業活動案は、一月末に開かれるOB総会で御検討いただきます。ヨット部創立五十周年を記念する五十年史の編纂が軸になると思ひます。中塚副会長が、編纂委員長を快諾して下さいますので、今秋をめどに作成される五十年史は大いに期待されますが、

これもOB諸兄の御協力なくしては困難な事業です。よろしく御願ひ申し上げます。

理事会の運営は、毎月の例会と、理事会議事録の全理事への発送でやって参りましたが、今年も同様に続けるつもりです。例会は、毎月第三木曜日午後六時より丸の内にある永楽倶楽部で開いており、どなたでも(理事以外の方でも)出席発言は自由というやり方です。一杯やりながらの気楽な会ですから、皆様是非御出席下さい。金の集め方、使い方、ヨット部の強化、宴会の計画等、皆様のお智慧を借して下さい。

半世紀にわたる我々のヨットクラブを今後いかに発展させるか、十年後のワセダヨットをどうすべきか、ということ考へながら、今シーズンも楽しくクラブの運営を行きたいと思ひます。

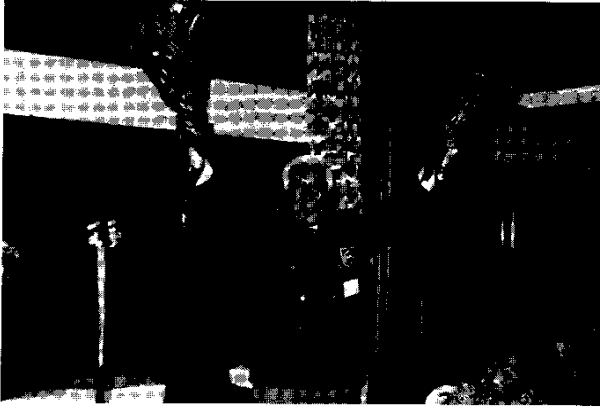
小澤会長に勲五等

早風会・手塚副会長も

十一月二十二日大隈会館でOB七十名が集まり、小澤会長の叙勲祝賀会を行いました。当日は祝賀会に先立って、恒例の早風会が開催され、二十年前の早風号を思い出しつつ、にぎやかに祝賀が進みました。

小澤会長の叙勲は、学生ヨットの発展に貢献されたことで、勲五等双光旭日章を受章されました。

第一回インターカレッジが昭和七年に始まり、日本ヨット協会の設立が同年であり、そのいづれにも小澤会長が尽力されたことと、それから半世紀にわたり学生ヨットの指導をしてこられたことを思ひますと、この叙勲は当然であるとい



感じとともに、小澤会長に象徴される我がワセダヨットの誇りであると思ひます。早風会は昭和三十八年四月の「早風」合同慰霊祭から数えると、第二十一回目にあたります。

この二十年間幹事役としてお世話をして下さった堀江副会長が挨拶され、当初より二十年間は早風の慰霊を続ける決心であったことが達成された喜びと、毎年御不自由な身体にもかかわらず、鹿児島より、この会の為に上京して下さる上田さんへの感謝を述べていました。

又この日出席された手塚副会長は、俳句の功績で勲五等瑞宝章を叙勲されたことが判り、重ね重ねおめでたい祝宴となりました。

当夜はめずらしいOBとして、山田金次郎氏(十四年卒)坪田善男氏(二十年卒)天神武氏(三十二年卒)山崎達光氏(三十二年卒)等が顔をみせ、ヨット部時代のなつかしい話でもちりりとなりました。

最後に全員で肩を組み合い校歌の大合唱をして散会となりました。このあと小グループに分かれ、新宿、渋谷あたりに繰り出し、三次会迄おぼぼ、後輩の家で沈をした人もいる様です。

昨年八月末に琵琶湖にて行なわれた、全日本インカレは健闘むなしく四七〇級六位、スナイプ級二位、総合三位に終りました。又、十月の開東新人インカレは一位でした。ご声援を感謝いたします。

決算報告に関する

内容説明について

◎年会費

五十六年度と同じく一四四名より入金がありました。

支出では、主に会報⑪⑫号の印刷、通信費と総会、祝賀会、理事会の印刷通知代、諸会費として会長、監督の対学校、協会、他大学との交流必要経費、謝礼慶弔費として、小島氏や加藤監督・小松コーチへのお礼。その他遠征費の補助ができました。

◎寄附金

今年度は学生の遠征費とレスキュー購入金として約一五〇名の皆様から特別のご配慮をいただきました。

特に若手OBはレスキュー委員会を設置し昭和五十年以降のOBに全員受益者負担ということで寄附をいただきました。

◎総会・臨時総会

総会は横浜で、早風会及び小沢会長叙勲祝賀会を大隈会館で催し、延一〇六名の参加を収支とんとんで決済。

◎雑収入

紋章・バッジの幹旋と稲電、レスキューの利用等の収入があり、これを援助金の一部に使用しました。

今後、長期的にみて事業部などで幹旋品販売、稲電、レスキューの利用等を通じて援助金の主力に持ってゆきたいと思

います。会費、寄附金の入金に関シクラブより札状を出すべきところ失礼しております。紙上を借り氏名一覧表報告にてお礼にかえさせて載します。大変有難とうござい

(浜田 記)

昭和57年度収支決算書

(収入の部)		金額	(支出の部)		金額
摘要	()は予算		摘要	()は予算	
前期繰越金	(132,386)	132,386	ヨット部へ援助金	(1,300,000)	5,045,360
年会費	(1,500,000)	1,210,000	※内訳①レスキュー(紺碧Ⅲ)		(3,317,300)
寄附金	(1,000,000)	4,779,550	②遠征費		(1,677,000)
総会・臨時総会費	(306,000)	568,500	③その他		(51,060)
雑収入	(7,614)	315,424	稲電へ援助金	(500,000)	374,931
(含利息)			総会・臨時総会費	(300,000)	515,050
			諸会費	(100,000)	130,000
			謝礼・慶弔費	(100,000)	312,822
			会報印刷、通信費	(360,000)	517,747
			予備費(次期繰越)	(340,000)	109,950
合計	(3,000,000)	7,005,860	合計	(3,000,000)	7,005,860

右記の通り決算致しました。

昭和57年12月31日 浜田 健治 裕

◎57年度年会費納入者(12/24現在) ⑩は卒業年度。前納者、前年度支払者を含む

- ⑩小沢 ⑫森繁 ⑬松山 藤村 ⑭増井 山田 ⑮植松 田原 永元 間瀬 ⑯堀江 平野 ⑰隈部 ⑱金子 ⑲三田 ⑳坪田 ㉑久保田 久留島 横田 清水 木村 ㉒加藤 林 ㉓宮本 ㉔木本 ㉕村瀬 ㉖円谷 佐伯 河村 大津 ㉗金沢 米田 石川 米田晴 安藤 ㉘是枝 岩本 千葉 松本 遊佐 浜田 浅山 齊藤 ㉙舟岡 伊藤 日色 安井 杉山 ㉚武村 天神 中田 山崎 度辺 ㉛清水 加藤 ㉜岡村 関根 ㉝大野 山田 菅山 ㉞土肥 原 吉田 ㉟原田 小沢 石田 角田 伊藤 ㊱安藤 木村 橋本 山崎 ㊲大 木内 杉山 山中 松島 齊藤 ㊳森 齊藤 滝 頼 長沢 小坂 石井 岡田 清水 ㊴石合 千津井 豊田 ㊵冬至 尾本 ㊶北島 ㊷斑目 大島 原田 ㊸三枝 早川 ㊹千把 樋田 ㊺藤井 近岡 ㊻大嶋 ㊼川瀬 角田 ㊽齊田 野口 渡辺 ㊾北川 松下 ㊿坂爪 ㊽風間 ㊾小池 石渡 以上一一一名、合計百二十二万円

◎57年度寄附金一覧(12/24現在)

- 口座振込、奉加帳(全日本遠征)、レスキュー委員会等各寄附合計。()数字は千円単位
- ⑫森繁 ⑬藤村 ⑭山田 ⑮植松 ⑯田原 ⑰永元 ⑱堀江 ⑲隈部 ⑳坪田 ㉑久留島 ㉒木村 ㉓横田 ㉔清水 ㉕宮本 ㉖渡辺 ㉗木本 ㉘佐伯 ㉙円谷 ㉚大津 ㉛村瀬 ㉜石川 ㉝金沢 ㉞米田晴 ㉟河村 ㊱米田 ㊲安藤 ㊳千葉 ㊴遊佐 ㊵松本 ㊶是枝 ㊷浜田 ㊸齊藤 ㊹

- 岩本 ⑩舟岡 ⑪安井 ⑫伊藤 ⑬日色 ⑭鈴木 ⑮杉山 ⑯天神 ⑰渡辺 ⑱山崎 ⑲武村 ⑳山原 ㉑中田 ㉒清水 ⑳齊藤 ㉓松井 ㉔加藤 ㉕関根 ⑳北河 ㉑山田 ㉒昔山 ㉓原田 ㉔伊藤 ㉕原田 ㉖平塚 ㉗石田 ㉘原田 ㉙山崎 ㉚角田 ㉛三沢 ㉜木村 ㉝山崎 ㉞中島 ㉟倉谷 ㊱横山 ㊲木内 ㊳齊藤 ㊴山中 ㊵大 ㊶松島 ㊷杉山 ㊸干葉 ㊹全日本遠征出席者四名で ㊺長沢 ㊻頼 ㊼小坂 ㊽森 ㊾滝 ㊿石井 ㊱石合 ㊲千津井 ㊳金刺 ㊴岡戸 ㊵佐々木 ㊶豊田 ㊷尾崎 ㊸石川 ㊹冬至 ㊺高須 ㊻伊藤 ㊼稲生 ㊽外処 ㊾北島 ㊿大矢木 ㊱斑目 ㊲大嶋 ㊳原田 ㊴菊地 ㊵山田 ㊶早川 ㊷町田 ㊸坂本 ㊹近岡 ㊺青木 ㊻赤松 ㊼藤井 ㊽恒川 ㊾庄司 ㊿大島 ㊽冬至 ㊾角田 ㊿川瀬 ㊽岩崎 ㊾齊田 ㊿大原 ㊽渡辺 ㊾早出 ㊿酒井 ㊽光武 ㊿野口 ㊽橋本 ㊿石川 ㊽庄島 ㊿北川 ㊽小川 ㊽ヒール ㊿本 ㊽白石 ㊽坂爪 ㊽伊能 ㊽松原 ㊽市村 ㊽井上 ㊽喜多内 ㊽風間 ㊽地曳 ㊽香田 ㊽中島 ㊽長谷山 ㊽川上 ㊽後藤 ㊽戸枝 ㊽河瀬 ㊽長瀬 ㊽小池 ㊽石渡 ㊽芝崎 ㊽その他矢頭部長 ㊽大河(海津高部長) ㊽関西OB会 ㊽理事会議より九、五〇円。合計四、七七九、五五〇円

明城 巖氏

昭和五十七年十二月二日、明城氏が肺がんでごくなりました。昭和三十三年卒。ご冥福をお祈り致します。

早稲田ヨットクラブ
総会開催のお知らせ

会員の皆様、明けましておめでとございませう。
今年も良いセーリングが出来ますようお祈り申し上げます。
さて恒例の新年会を兼ねたOB総会を左記の通り開催いたしますので、ご多忙とは存じますが是非ご参集下さい。
昭和五十八年一月
早稲田ヨットクラブ
理事長 杉山博保

一、議題

- ①昭和五十七年度決算報告
- ②理事及び役員選任
- ③昭和五十八年度事業計画
- ④ヨット部新役員の承認
- ⑤その他

二、日時

昭和58年1月28日(六時~八時半)

三、場所

永楽クラブ(東京・丸ノ内野村ビル
七階 TEL:三一一六四三九)

四、会費

五、〇〇〇円 以上

同封の返信ハガキは一月二十二日までにお出し下さい。又、出席される方はこの③会報を持参して下さい。

◎58年度会費とご寄附のお願い

早稲田ヨット部への援助と、私たちのクラブ運営の為、本年も年会費一万円と何分のご寄附をお寄せいただきたくお願いします。

昭和58年~59年度 早稲田ヨットクラブ役員(案)

担当	氏名	卒業年度	担当	氏名	地域	卒業年度	氏名	
会長	小沢信三郎	41	大型艇	頼義人	中部	51	大島徳次郎	
副会長	松山勲	41	総務	小坂順孝	関西	29	米田晴二	
"	山田金次郎	41		森昭	"	30	中沢弘	
"	田原正信	42		石合幸彦	"	46	斑目寿明	
"	宮川清	43		仙波節男	九州	15	長医秀明	
"	堀江喜三	44		伊藤宏	"	43	冬至真也	
"	中塚勝三	45		北島武夫	"	51	冬至克也	
"	隈部鵬	45	大型艇	大矢木一	〈昭和58年度〉			
〈本部理事〉			46	菊池浩明	〈早稲田大学ヨット部役員〉			
卒業年度	担当	氏名	47	大型艇	早川一恒	一役職	氏名	
22	監査	横田豊	48	大型艇	杉井謙治	部長	矢頭敏也	
30	"	千葉栄作	49		林英樹	講師	安藤一夫	
30	経理	浜田裕	50		青木博和	監督	加藤文生	
31	理事長	杉山博保	52	大型艇	岩崎誠	助監督	北島武夫	
31	事務局長	舟岡正	53		光武勝広	コーチ	野口正文	
32		武村洋一	54	大型艇	北川邦弘	"	大原義昭	
33		清水栄太郎	55		伊熊孝雄	"	橋本一彦	
34		並木茂士	56	経理	中島健治	"	北川邦弘	
35		菅山義政	57		小池充郎	招待コーチ	小松一憲	
36		原田弘	58		鎌田等	主将	佐々木陽一	
37	広報	石田晋也	〈支部担当理事〉				主務	小野芳夫
38	総務	木村光成	地域	卒業年度	氏名	副将	黒田佳宏	
39		横山敬三	東北	17	平野和夫	学連	市井久也	
40		大興太郎	中部	28	村瀬治美	稲龍	坂東義之	
40	広報	松島弘行	"	40	若松徳生			

ヨット部50年史編集委員(案)

卒業年度	担当	氏名	連絡先	卒業年度	担当	氏名	連絡先
14		新名敬一	自宅 0467-22-2400	32	S.31~35	武村洋一	サンバードスポーツ552-6811
15		永元作一	岩崎通信機 272-0461	37	S.36~40	石田晋也	ナショナル出版370-4993
16	委員長	中塚勝三	自宅 06-431-4682	40	事務局	松島弘行	松島商店 666-3871
17		隈部鵬	" 390-8450	41	S.41-45	森昭	西華産業 211-6811
22		久留島三紀男	三島製紙 542-3151	46	S.46~50	菊池浩明	巴工業 274-0411
22	(注)	横田豊	山之内製菓 244-3176	53	S.51~55	斉田治	住友商事 217-7733
25	S.21~25	伊井邦彦	自宅 851-2221	56	S.56~58	中島健治	第一生命 281-6161
29	副委員長	米田晴二	大丸 06-252-4521	注) 担当欄S.21~25の例は、卒業年度S.21~25の会員のコーディネーターを担当して戴くもの。			
30	S.26~30	千葉栄作	リーベルマン				
31	事務局	舟岡正	巴工業 271-4093				

- 間に敵艇ある場合、先行艇は敵艇に対しライングマツチを挑み、その間、後続艇を先行せしめて敵艇を味方二艇の後方に落とす。
- (b) クローズドホールドにてマーク到達の時、敵艇先行して味方艇その後が続く時は、風上、後方より敵艇をおさえつ、オーバーセーリングを続け、敵艇のオーバーセーリング大なる間、味方艇先にタックを行ない、先行してリードをする事。
- (c) ランニングにてマーク廻航の際、自艇が先行敵艇とオーバーラップし、後続味方艇が接近してくる時は水路を要求し、後続味方艇を最内側に回航せしめ、自艇之につく事。
- B 敵チーム中、出色のものに対し常に注意し、接近マークする事。
- C スタートに於いて敵一艇異コースを取った時は、近くの味方艇之と同コースを取る事。
- D 失格艇の絶無を期する事。自艇の失格はチームの失点となる故。
- (a) マークタツチは最もつまらなき失格なり。
- (b) スタートボード、ポートのケースは交叉以前に速やかな判断を下し帆走する事。
- (c) その他のケースに於いては、当時の状況、周囲の艇、位置等を確実にしておいて、帆走委員会に対し精密で、確なる報告を提出し、少しもおぼろ気なる事なきようにする事。不明確は、最も不利なる事也。
- E スタート直前に於いて味方艇の団結

- を再確認し、事前に敵を圧する事。
- 二、早慶戦の伝統に恥じぬスポーツマンシップで、正しきレースを行なう事。
- 三、敵艇に任せられぬ気持ちを持ち、戦う前、逆に相手を呑むの気構えで当る事。之が最も重要にして、スタート時は此の心の如何に依つて、大いに支配せられるが為也。
- 四、レースの準備は出来る限り当方で行ない、レース場水域始め全般の状況に精通し、慌てる事無きようにする事。
- 五、帆走委員会の決定には、絶対に反対せぬこと。
- 六、後々迄、不快な感情を起さぬようシーマンシップを忘れぬ事。
- 七、封戦後は両校交歓して、之を機に今後の協力を図める事。
- 八、艇重を大切にすること。
- 九、艇重を軽くし艇から水も切つて置く事。
- 一〇、備品を点検し、最良の状態に置く事。
- 一一、スタートの練習に重きを置く事。
- 一二、各種のランディングマークに付、練習をして置く事。
- 一三、ルールの研究を怠らざる事。良く知り、然して権利は強く主張し、義務は無理なく果たす事。つまらぬ事で譲らぬ事。

昭和二十二年六月二十七日九日

関東インカレ逆転負・二位

戦後初の関東インカレ・ヨットレースが行われ、各校二艇で三日間、八レース。結果は一レースから七レースまでは通算一位であったが、最終レースで慶応に大逆転され二位となつてしまつた。

数少ない、限られた舟で、多くのヨット

ト部員が技術を身につけていくなかで、その真価が、各公認ヨットレースの勝敗によつて問われた。

個々の技術とともに、当時我々が最も身につけたのは、チームワークであつた。

デインギー上の二人は云うまでもなく、出場艇全部のチームワークである。日常的にいかにかに激しい練習をしていても、それが個々のヨットマンの肉体的成長に結びついて行かなければ、海という大自然の哲理に背くことになる。

『天の利、我にあらざ』というか、なんとこのレースは、当時の我々の未成熟さの一つが顕われたような気がする。

あのレースはうまくいった、あのレースの反省すべき点はこうだつた、などと今でも断片的に思い出されるレースであつた。

昭和二十二年七月

戦後初の全日本インカレ・於博多

早稲田は資金に乏しく、遠征費より艇の建造資金優先のため涙をのんで全日本へは不参加。

レース結果は慶応が優勝したが、我々が参加していれば……？

昭和二十二年八月

館山で新入合宿

戦後初の大規模な夏季フレッツシユマン合宿を館山(水産学校)で行う。

横浜―館山間の長距離回航をする。

横浜での練習中の出来事

戦後、しばらくの間は、全くの物資不足の時代であつた。全国民ともに、毎日の食糧にも事欠くような配給の時代であつたが、それに引き換え、米軍関係のそれは全てに豊かな状態であつた。

そのような時、横浜港内で練習を行な

っている我々の眼の前の海面に、米国製のたばこ(洋モク)が多数浮かんでいる日が、間々あつた。それもバラ／＼でなく一カートン(一〇箱入り)のものが、未だ中味は水にも濡れず健在のまま、流されて行く。思わぬ拾得物を艇にあげ、相当数の外国たばこを手に入れるような事もあつたのである。

これは米軍物資を本船からはしけ取りの際、水揚人がわざと海面に物資を落としたものが、我々の練習海面にまで流されて来たものことだつた。

昭和二十二年九月 我々卒業

四大学OB戦

十月二十四日佐島で第十二回四大学OBレースが行われました。今回の使用艇はJ-24各校一隻とOPデインギー各校一隻づつ。第一レースは南風一、二米の微風。海上での昼食後の第二レースは、スタート直前になつて強風が吹き出し、ロートルレースには危険であるとのコミッテイの判断で以後のレースは中止となり、強風ワセタの実力を発揮出来ず、レース結果は慶応早間の順位でした。

今回の会場となつた佐島は、森繁先輩が開拓されたゆかりのヨットクラブで、そのせいか、前夜祭や宿泊について気持ちの良い待遇が感じられました。

いつものことながら、この集まりは、レースより前夜祭が楽しく、今回の当番校である慶応は、ヨット部創立五十周年記念事業の一つとして今回の運営を考えたらしく、例年以上にサービスの良い前夜祭となり、二次会では、宿泊用の座敷で、同志社秋山氏のヨカチン踊り迄出るさわぎでした。